

一般質問

6月定例会



内藤 眞一議員

Q 防災対策を問う

熊本地震による被害は甚大だった。本町の防災対策について問う。

熊本地震を受け、国・県等から体制等の変更や追加的対応の指示があったか。

中国地方の梅雨入りを受け、大雨・洪水・台風等への対応体制や町民への告知、伝達手段が途絶した時の周知方法は確立されているのか。

さらに、災害対策本部と各自治区の相互連絡体制は整備できているのか。

また、町が整理した告知・組織、避難等について、自治区長会で再度周知するのか。



A 防災意識啓発し 協働整備を

町長 山崎 英樹

熊本地震の発生によって、体制等の変更や新たな対応について、国からの連絡や通達はない。

異常気象時の災害対策本部設置などの体制は、マニュアルに基づき自動設置を定めている。

町民への告知もガイドラインによって、告知放送による注意喚起を行うなど確立している。今後は、本年度整備する防災行政無線で対応する。

自治区内の連絡体制づくりは、避難訓練などを通じ取り組んでいるが、地域により温度差がある。地域内連携方式の防災組織として、自ら考え取組むという意識の醸成を図り、地域と行政が協働して整備していきたい。

周知については、区長会で徹底する。

Q 頓原の通学路 整備を

通学路のカラー舗装による「みなし歩道」としての整備が図られているが、由来八幡宮から万対橋間が未整備であるので整備を望む。

A 関係機関と検討

町長 山崎 英樹

指摘の区間は、次の事業計画で、学校、教育委員会、警察等と協議・検討したい。



カラー舗装を歩き登校する児童

Q 落石防止対策を



崩れかけた町道法面

A 早期実現に努力

邑南町内の県道で落石があり、死亡事故が発生した。本町でも、落石防止対策を求める陳情が出されている。費用対効果という問題もあるが、早急な対策を求める。

町長 山崎 英樹

費用対効果という指摘があったが、そのところが大きなネックになっている。有効な財源確保を含め、早期に実現できるよう引き続き努力する。

一般質問

6月定例会

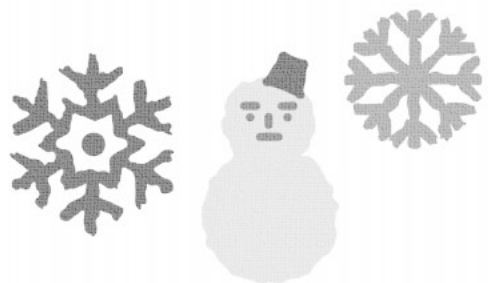


難波 俊司 議員

Q 大雪対策は 万全か

本年1月、短期間に降り続いた雪は1・2メートルに達し、除雪も出来ない箇所が発生した。このような大雪の際、町内の積雪、道路の状況や空き家、高齢者宅等の状況を把握することが重要だが、どのような方法で把握しているか。また、大雪のため除雪できない時の火災、急病、雪崩等による家屋の倒壊、長時間にわたる停電の対策は十分できていると思うが、現状を問う。

緊急時には消防団への出動要請が必要だが、災害、救助に向かうには、除雪用スコップ、雪輪、けが人・病人等を搬送するスノーボードなどは必需品と思うが、準備はどうか。



A 備えは整える

町長 山崎 英樹

積雪量、道路の状況の把握は、朝4時頃職員が現地に行き、目視で確認している。

消防団に出動要請する場合、現時点で必要な道具等は分団に配備されていないので、それぞれの家庭にある物を使って頂く。

大雪の備えは公で対応するもの、個人で対応すべきものなどがあるが、行うべき対策は取っていく。

Q 空き家対策は どうか

年々空き家が増加している。同じ空き家でも管理されていれば問題ないが、5年・10年と放置されたものも少なくない。空き家になってからどの位経過しているのか、建物の状態はどうか、誰が管理しているのかなど、町やその地域がしっかりと把握しておくことは大事だ。

ますます増える空き家に対する考えを問う。



A 充分な対応 できてない

町長 山崎 英樹

残念ながら、空き家が増加している状況の中で、対策は十分でない。

国が定めた空き家対策特別措置法に従い、本町の空き家等対策計画を策定し、これに基づいて対応していくことになっっているが、まだ策定に至っていない。

計画を策定し、適正な管理が出来るよう努める。